

臨床共通科目
探求課題発表資料

話し合いの学習デザインと その分析



‘09/07/06

担当:松本 修 先生

7班:清水 若山 星野 桑原 寺澤

学習における話し合いの成立

- 個々の学習者が与えられた作品に対して自分なりの読み（解釈）を行う→Step 1



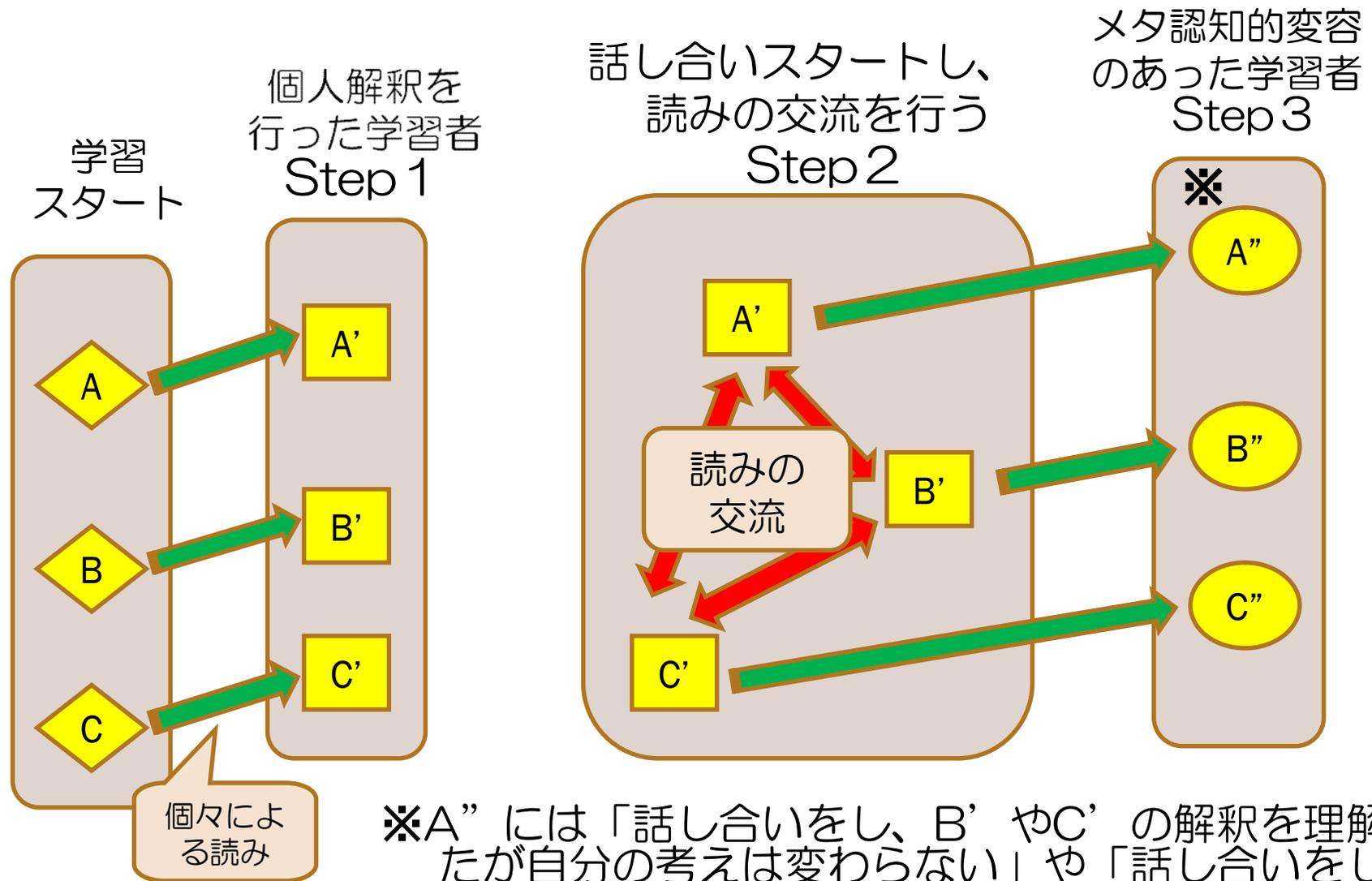
- 互いの読み（解釈）の交流を行う
→Step 2



- その結果、自他相互の変容を客観的に認識できる→Step 3



話し合い成立へのイメージ図



※A''には「話し合いをし、B'やC'の解釈を理解したが自分の考えは変わらない」や「話し合いをし、B'の解釈が自分の解釈に影響を与えた」などさまざまなパターンが含まれる

読みの交流を体感してみましよう

どきん

谷川俊太郎

さわってみようかなあ　　つるつる

おしてみようかなあ　　ゆらゆら

もうすこしおそうかなあ　　ぐらぐら

もいちどおそうかあ　　がらがら

たおれちゃったよなあ　　えへへ

いんりよくかんじるねえ　　みしみし

ちきゅうはまわってるう　　ぐいぐい

かぜもふいてるよお　　そよそよ

あるきはじめるかあ　　ひたひた

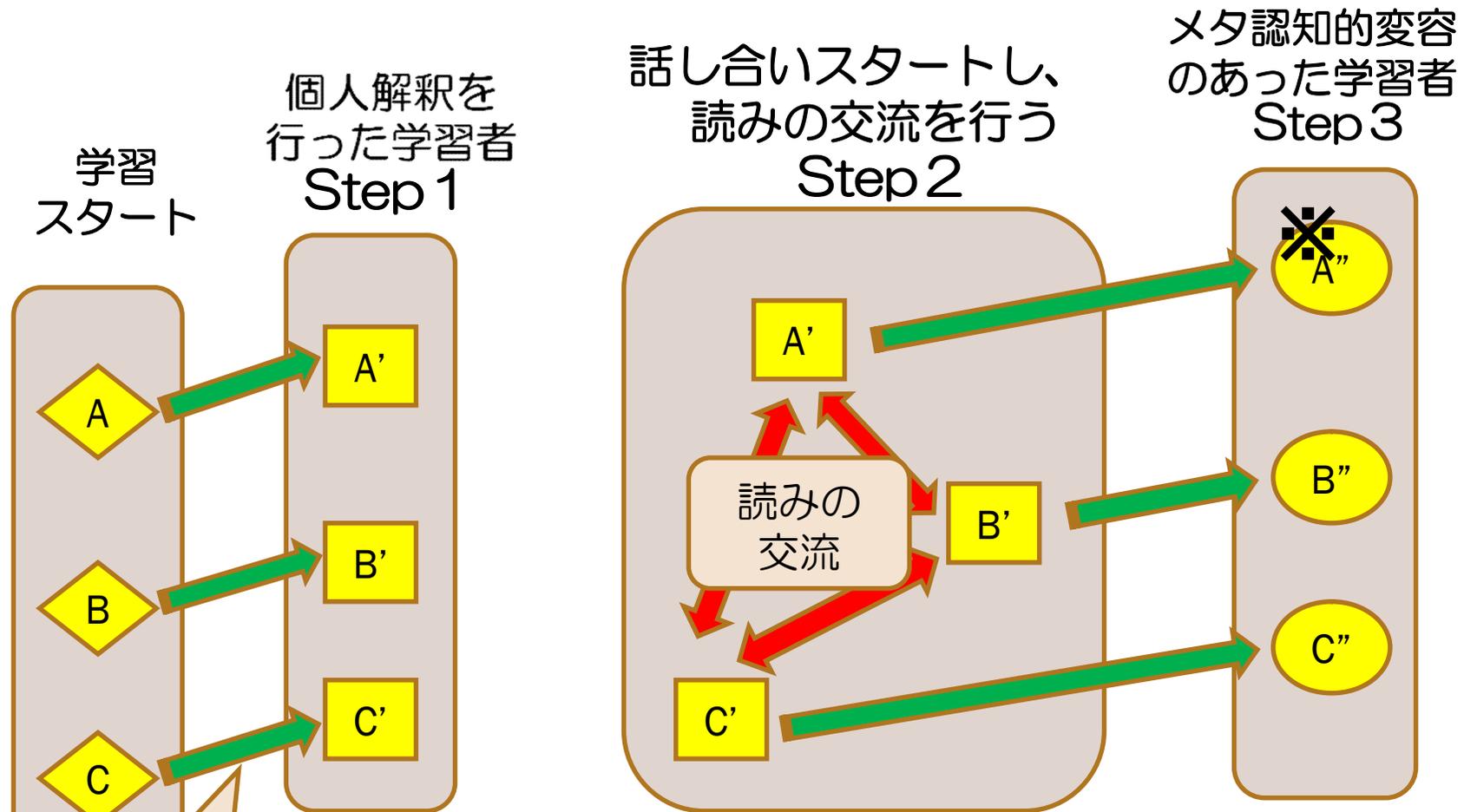
だれかがふりむいた！　　どきん

学習活動の流れ

※グループ内で司会1名、記録1名を決めてください。

- 1 作品から**個人の読み**を行います。
→演習プリントの①（10分）
- 2 個人の読みをもとに**読みの交流**を行います。
→演習プリントの②と③（20分）
- 3 読みの交流による自他の変容を確認します。
→演習プリントの④（5分）

話し合い成立へのイメージ図



個々による読み

※A''には「話し合いをし、B' やC' の解釈を理解したが自分の考えは変わらない」や「話し合いをし、B' の解釈が自分の解釈に影響を与えた」などさまざまなパターンが含まれる

題材と学習デザインの設定理由①

◇題材「どきん」に関わって

- 詩集『どきん』（谷川俊太郎 1983年 理論社）の巻末に収録
- 形式的にはすべてがひらがな表記、各行の下段がオノマトペ（擬音語・擬態語）の繰り返し
→→独特のリズム感（小学校3年生の実践例では音読することが多い）
- 捉えの多様性
「小さな子どもの積み木遊び」「彫刻のようなオブジェ」「環境問題への訴え」「怪獣」
- 下段のオノマトペ
上段とのつながりで考える 下段同士のみで考える

題材と学習デザインの設定理由②

◇学習デザインに関わって

○グループの構成

- ・探求班を活用

→→人数、生活経験、話し合いのしやすさ。

○設問と時間

- ・大きな設問は1つ

個人の読み、読みの交流、自他の変容の確認の流れを考えると設問は1つ

- ・今回は詩を選択。展開を考えると詩や短歌、俳句が良いのでは。（長文の場合は一部分を取り上げて実践）

参考文献

『新編新しい国語 3年上』（東京書籍）

松本修 『走れメロス』の語りに着目した読みの交流 『紀要 国語教育の実践の新しい展開Ⅱ 2007』

松本修 「語り」に焦点化した読みの交流における話し合い活動の内容と形式 『臨床教科教育学会 2005』

根岸泰子 詩教材における解釈の多義性をどう考えるか「谷川俊太郎『どきん』を中心に」『岐阜大学教育学部研究報告 人文科学1997』